

令和7年度事業報告書

公の施設名称	おかざき自然体験の森
施設の設置目的、役割	良好な自然環境を保全しつつ、自然を活用した各種の体験を通じて環境教育の推進を図る（条例 第1条より）
施設の所在地	岡崎市八ツ木町池ノ上 10 番地
施設規模	敷地面積：41ha 建物面積：383.91 m ²
指定管理者	名 称：コニックス株式会社 所在地：名古屋市中村区太閤四丁目 6 番 22 号 代表者：代表取締役 吉田 治伸
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

指定事業については毎年ブラッシュアップを図りながら、事業を実施した。

小中学校の環境学習授業は3校9クラス（岩津小4年生71名、井田小4年189名、愛宕小3年生25名）を対象に実施した。それぞれ学校側と綿密な打ち合わせを行い、ニーズに合わせて指定管理者独自のカリキュラムを作成し実施した。

市民活動団体とは例年同様コミュニケーションを密にとり、イベントの告知を市政だよりに記載してもらうことができた。

一部のイベントについては、市民団体の講師の都合及び高齢化や天候による中止が数回発生した。

自主事業については春の風まつり、夏の水まつり、秋の里山感謝祭、冬の空まつり、十三夜の音楽会&お月見等四季折々のイベントを開催した。

森の教室、四季のまつり、森の歴史、昔ながらの農業体験、（稲作、さつま芋づくり、お茶摘み等）市民活動団体イベント、企業ボランティア活動（4社実施）等積極的に実施できた。

各種イベントやボランティア活動等の実施にあたっては、昨年度の事故を教訓に安全対策を施し、実施できた。

通年参加型の自然環境学習プログラムとして3年目を迎えた「おかもりファミリークラブ」は13家族、子ども17名保護者14名合計31名が参加し、「自然の中で自ら考え行動できる」を目標に4回のプログラムを実施した。また、今年度も各回の講師には市民活動団体や専門家の協力をお願いし、楽しくて為になる内容になった。

令和5年度に策定した「森づくり方針改定 2023」の進捗確認や情報共有のため、令和6年度に引き続き、岡崎市環境保全課の担当者、日頃体験の森で活動している市民活動団体、ハツ木町内会、森林組合及びビオトープ・ネットワーク中部をメンバーとする「森づくり連絡会」を組成し、おかざき自然体験の森スタッフの田澤がファシリテーターを務め各市民活動団体の進捗確認や次年度計画等情報共有を行いながら、将来のおかざき自然体験の森のあり方をみんなで考えるワークショップを行った。

また昨年度よりスタートした「里山ミニの会」を市民活動団体として登録し、活動回数全30回、延べ動員数155名で活動を行った。

おかざき自然体験の森の有志による自然勉強会を発足させ、令和8年1月から自然観察同好会（名称：プランツパーティー）として活動をスタートした。

近隣の企業ボランティアは、ジェイテクト花園（ボランティア活動25名、親子イベント35名）、ジェイテクトフルードパワーシステム（雨天中止：0名）、三菱自工・シャトコ（23名）と4社の申込があり3社実施。安全対策として装備の確認、グルーピング、危険予知活動（KY）を確実に実施し、安全に楽しく行った。

学生の里山保全活動の担い手育成のため、昨年の「里山ビルダーボランティア」に続き「里山学びあい企画づくりワークショップ」を企画し、3回の講座、および実践を他見してもらい、次年度は学生たちの企画イベントを実施することとなった。

加入4年目となる「西三河生態系ネットワーク」、「愛知県生物多様性サポーターズ」により、愛知県自然環境課や他団体とのネットワークが構築でき、「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金（426,390円）」と「モニタリング費（100,000円）」の補助金申請を行い、指定管理料以外を財源とした自然共生活動を実施することができた。

愛知県主催「生物多様性保全活動セミナー」では岡田康が講師を務めた。

指定管理業務の仕様書に記載された資格はすべて取得できている。

必須：自然観察指導員、プロジェクトワイルド・ウェット指導者、ネイチャーゲームリーダー

推奨：生物分類技能検定（3級・4級）、ビオトープ管理士

しかし、これだけに満足せず、各所で実施される研修や情報交換会に参加し、更なる知識の吸収及びネットワークの拡大に努めた。

※主な研修及び情報収集

- ①とよた森林学校「ゆっくり森の樹木入門：全3回」…参加者：田澤
- ②紺屋ラボ見学（岐阜県飯地町）森づくり協議会のファシリテーターの高野教授の活動場所見学…参加者：田澤、里山ミニの会代表（青木）
- ③岡崎ファシリテーション研究会…参加者：田澤、若杉
- ④特定外来生物企画展（豊橋市自然史博物館）…参加者：岡田康、田澤
- ⑤西三河生態系ネットワーク協議会総会で活動報告を実施。…参加者：岡田康、若杉

今年も、テレビ愛知で稲刈りの中継放送やエフエム EGAO の公開生放送やレポーターによるインタビュー放送に出演。また地元ケーブル TV mics の取材やスタッフ体験放送の収録があった。

SNS の定期的な更新により Instagram のフォロワー数は 700 件を超えた。

(2) 事業実施に対する自己評価

今年度も各種指定事業や環境教室に関しては、毎年、指定管理者独自の工夫を加えブラッシュアップしながら職員自らの企画で推進できた。

- ① 昔ながらの農業体験：15 回（昔ながらの稲作体験、里山の芋掘り、お茶摘み体験）
 - ・すべての事業において申込みで定員オーバーとなり抽選にて参加者を選定。大人気のイベントとなっている。

- ② 森の教室：指定事業：4 回（これで私もホタル博士 2 回、夏の虫探検隊、秋の実りと生きもの調査隊）

提案事業：11 回（生きもの調査とヤゴ教室、昆虫標本づくり教室、みんなの昆虫展 2 回、丸木舟で外来種駆除 2 回、おかもりファミリークラブ 4 回、森づくり連絡会）

- ・いずれも、生きもの好きの子どもたちであふれ、すべてのプログラムが大盛況であった。また、森づくり連絡会は市民団体、地域との連携のため不可欠である。

- ・今回初めて「みんなの昆虫展」を開催したが、親子で協力し合い昆虫採集をする姿は家族の絆を再認識する内容で、次回も是非実施したい。

- ③ 春の風まつり（竹とんぼ）、夏の水まつり（竹水鉄砲・流しそうめん）、秋の里山感謝祭（モルック大会）、冬の空まつり（凧揚げ）を四季のまつりとして、いろいろな季節の自然のあそびにふれあう機会を創出することができ来場者の大幅なアップにつなげることができた。

- ・今後も常に来場者増に貢献できるように工夫して行きたい。

- ・春まつりと秋の里山感謝祭は市民活動団体の出展もあり協働事業となった。

- ④ 「森の十三夜のおんがく会&お月見」を有料にて開催した。

- ・日本古来の十三夜のお月見の風習の中、雅楽と二胡の演奏を行い昼間の体験の森とは全く違う雰囲気の良いイベントが開催できた。

- ・今回で 3 回目となり、定番イベントとなった。

- ⑤ イベントの企画提供の実施

- ・大学のサークル仲間の餅つき体験も昨年に引き続き提供した。

- ※来場者の満足度向上のためのコンテンツをこれからも拡大し PR 強化をする。

- ※今年度は企業ボランティア活動においても、保全活動作業だけでなく、家族で楽しめる体験型イベントを企画し親子で楽しんでもらえた。

- ⑥ 資源の循環のための物品販売の拡大

- ・指定管理者開始当初から木炭や竹細工（竹トンボやパタパタ）、わら、干しシイタケ、もち米、茶油から始まり、草木染手ぬぐい、ハーブ茶、旬のタケノコ（4 月）、薪（サクラ、ナラ）、危険木・倒木や支障木の販売と品数を増やした。

また、今年も「おかざき農遊館」にも木炭、薪、わらの委託販売を継続。

（商品説明にもおかざき自然体験の紹介を入れて施設のアピールも実施）

⑦ その他

- ・昨年度の課題として取り上げたイベント以外の一般の来場者が今年は秋にフジバカマに寄ってくる「アサギマダラ」や冬場に紅葉の実につられて数年ぶりに「ウソ」が飛来し写真家の皆さんの来場が大きく伸びた。

※イベントの開催は限度があるがタイムリーな情報発信が来場者増につながった。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

令和7年度の来場者は 23,269 名と前年実績の 113.46%となり目標の 21,000 人を大きく上回ることができた。

有料占有利用団体の利用は昨年度を大きく上回り、利用料金収入がこれまでで最高額の 262,100 円となった。指定事業及び提案事業の参加費である事業費収入と利用料金収入を合算した額は昨年度の 207,900 円を大きく上回り 395,500 円となった。(昨年対比：190.24%)

利用団体としては初年度からの「森のクラフト」「切り紙のワークショップ」福祉関係団体「イエナ式探求塾グーテラウネ」「きのこの会」「ボーイスカウト」山形県から「ハーブのワークショップ」「海上の森：コウモリ調査隊」といった団体の利用のほか、「あいちシニアオリエンテーリング愛好会」の大会会場となり 200 名の参加者があった。中部電力の鉄塔塗装の為「中電パワーグリッド」の駐車場利用料も利用料金収入増額の要因となった。

管理棟での来場者受付ではスタッフが必ず対応し、来場時間、人数、お住まい、施設の認知方法等をお伺いするようにし、来場目的に合った現在の見どころや今度のイベント予定等の案内を積極的に告知している。また、QR コードでのアンケートのお願いも同時に行った。

(2) 利用状況に対する自己評価

Facebook や Instagram 等の SNS の更新頻度を上げることにより、フォロワーが増加し来場者の創出につながっている。

令和4年度より来場者やイベント参加者向けにアンケートを実施し、ニーズを把握し今後のイベントやプログラムの開発の参考にしているが、令和6年度よりアンケートの母数を増やすために QR コードでのアンケートをお勧めしている。

「おかもりファミリークラブ」も3年目となり、みんな仲良く活動する中、リピート参加者が新しい参加者を引っ張っていく姿が見られ、参加者の成長や満足度さらに積極性がアップし「里山ミニの会」や「里山学びあい企画作りワークショップ」のプログラム実習にも参加してくれた。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額（円）
収 入	指定管理料収入	指定管理料一精算還付（修繕、輸送費）	27,917,000
	利用料金収入	施設占有利用料	262,100
	事業収入	指定事業・提案事業参加費	133,400
収入 計			28,312,500
支 出	直接管理運営費	直接人件費、光熱水費、消耗印刷費、修繕費、清掃等委託料、保険料等	25,416,329
	（うち修繕費・輸送費）	※精算項目	1,003,611
	事業費	自主事業に係る経費	
	その他	本部経費、租税公課、当期剰余金等	1,892,560
支出 計			28,312,500
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

指定管理者４年目となるが、光熱水費や物価の上昇、人件費の上昇がある中、指定管理料及び利用料収入等の範囲内で管理運営を遂行した。

精算項目である修繕費についてはほぼ予算通りに運用できたが、学校関係の環境学習授業で利用する輸送費（環境教室バス経費）は井田小学校１校の利用で６台の配車となり予算を超えてしまった。

しかしながら愛宕小学校は予算がないことをお伝えしたにもかかわらず学校の負担で来場していただけた。（一昨年のプログラムが非常に良かったとのことで自費で参加）

※令和８年度よりバスの送迎費は半額程度学校に負担していただけるようお願いする予定。

修繕費については開所して２０年以上経過していることから管理棟のエアコンの故障や耕うん機、薪割り機、運搬機、チッパー、車両等の大型機械類の故障が目立ち計１４件で予算をほぼ使用してしまった。

利用料金収入に関しては当初目標金額を達成し、過去最大額となった。指定事業、提案事業の参加費は昨年度と同額程度であった。

本年も、大学のサークル仲間での餅つき体験等、付帯設備を利用したイベントが実施できた。

4 利用者アンケート結果

(1) 実施概要

実施期間	回答者数	アンケート実施方法
2025 年 8 月から 12 月 ※2026 年 3 月まで延長	一般・イベント参加者 87 件	一般 管理棟受付での声掛けによる収集、イベント参加者にアンケートのお願い。 ※森の教室は別途次回の参考用
2025 年 8 月から 12 月 ※2026 年 3 月まで延長	QR コードによる回答者 26 件	QR コードによるアンケート

※アンケート回答者には「おかざき自然体験の森」オリジナル缶バッジをプレゼントした。

(2) アンケート結果概要 ※結果については別紙のとおり

アンケート内容

- ① プロフィール 性別・年齢・お住まい（市内・県内・県外）
- ② 来場者特性 来場回数・好きな場所・希望イベントプログラム
- ③ 職員・施設 職員の対応・施設に対するご意見
- ④ 当施設のイベント・ボランティア活動に関する質問 興味の有無・開催内容・曜日等
- ⑤ その他ご意見

(3) アンケート結果に対する自己評価

職員に対する評価は「満足」と「やや満足」で 100%となっている。

QR コードによる回答者は他の回答者よりやや辛口の回答となっている。

※これらの方々の評価を正当な評価と考え改善して行く。

もともと自然が好きな方が来場されているのか、施設に関してのご意見や要望はほとんどなかった。

※イベント参加以外の方々がもっと来てもらえるように施設の告知方法をもっと効果的に実施できるようにしたい。

告知方法としては、豊富な媒体の活用…チラシ、看板、SNS、市の広報、市の PR タイムの活用、メディアへのパブリシティ強化。

ひとりで来ても楽しめるセルフプログラムの開発・提供を考える。

5 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

公共施設ならではの公平性の担保と民間企業ならではの接客・接遇強化を心掛け、安心・安全・快適な施設運営を全スタッフで心掛けて運営した。

※毎年年度初めに自社のスマイル研修（接客・接遇・安全・情報管理研修）を全スタッフが受講している。

施設内で活動する市民活動団体の皆さんもサービス精神が芽生えてきたと思われる。

写真家の皆様に写真提供を呼びかけたことで、管理棟入口の看板や令和庵のパネルに写真掲示をする双方向コミュニケーションができてきた。

施設内の自然素材の加工品等をさらに増やしお値打ち価格で来場者に提供できたこともサービス向上につながったと思われる。

303,011 円の売り上げ（昨年対比 89.9%だったが）があり2年連続で 300,000 円を超えた。

※自然素材の加工品等

木炭、薪、干しシイタケ、寒茶、ハーブ茶、もち米、茶油、スウエーデントーチ、竹とんぼ、森の味噌、朝どれタケノコ、桜チップ、草木染ハンカチ等。

また、お茶摘みボランティアでハーブ茶を作った後、その場で飲めるハーブ茶の販売が少しずつ定着し、のんびりお茶を楽しむ方が増えた。（古民家カフェの雰囲気演出）

管理棟の入り口にある石うすに花を生け「ウエルカムフラワー」を飾ったり、夏の暑い時に縁側に庇を設置し、卓袱台を置きのんびりできるスペースを提供した。今年から夏はミストが出て涼しく、冬は陽だまりが楽しめるベンチをピザ窯の横に設置した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

来場者に積極的にお声がけをすることによりニーズ把握に努めた。

まだまだ、ここで何ができるか知らない来場者が多いため、管理棟内のレイアウトを変更し自然観察の呼びかけや販売品用の棚を設け PR を強化し、自由工作の材料を充実させた。

管理棟に来場した方はもちろん場内で散策している方にも積極的にお声がけするようにした。

施設利用受付簿の改良を行い、施設を知ったきっかけを選べるようにした。（SNS 告知、フォローのお願い）

QR アンケートの告知を入口ホワイトボード、四阿、天が峰に設置しアンケート収集に努めた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

来場者のご意見を真摯にお伺いし、岡崎市の所管課（環境保全課）に報告した。

【来場者及び近隣住民からのご意見の例】

- ・飲料の自販機がほとんど売り切れだった…即業者に補充依頼をした。
- ・竹細工教室の講師が直前で都合が悪く中止…前日電話連絡実施。
- ・森からサルが周辺住宅に侵入…サルが登る木の伐採をした。

- 中電細川変電所上空の支障木伐採依頼…森林組合にて伐採をした。
- 大木が茂って周辺住宅の日陰になる…森林組合にて伐採をした。
- 豪雨により倒木発生…岡崎市に連絡し岡崎市により対応。
- イノシシが周辺住宅に侵入…フェンス不備修繕、罾の設置をした。
- 台風 15 号により小川に伐倒木を玉切りしたものが流出…川にメッシュをはり、玉切りしたものの移動をした。
- 炭焼小屋前広場にベンチの設置要望…ウッドプランナー制作のベンチを設置した。
- 台風や豪雨、強風時に倒木が散見される…荒天後の場内点検により速やかに対処した。

指定管理者だけで対応できることは即、改善を実施し定例会等で岡崎市に報告した。

また、指定管理者だけでは対応できない事項については早急に岡崎市に報告し指示を仰ぐようにした。